

4番(川上晋平)登壇 自民党の川上でございます。

私は、イノシシによる農業被害等の対策について、身近な公園整備について、以上2件について質問いたします。

まず、イノシシによる農業被害等の対策についてお尋ねします。

国において、ことしの3月に策定された新たな食料・農村基本計画では、農村なくして都市は存続しないことと、また食料自給率はカロリーベースで41%から50%に引き上げ、自給率向上に資する施策を重点的に進めることとされています。しかしながら、農業の現状を見ると、規模の拡大や生産性の向上が進められている一方で、農業者の高齢化の進行、後継者不足、農産物価格の低迷などさまざまな厳しい問題に直面しています。また、食の安全、安心に対する消費者の関心の高まりによるコスト増や、今後の対外輸出入交渉の進展次第ではさらに大きな打撃を受けることも予想され、これからの農業に大きな危機感を持たれているところと見えます。一方、本市の農業について見ますと、高齢化の進行や新規就農者の伸び悩みなどにより農業従事者が年々減少しており、加えて本市の農家の多くは兼業・小規模農家であり、多くの労力、経費を使いながらもぎりぎりの経営努力をされるなど大変厳しい状況にあると言えます。そのような状況の中で、最近イノシシによる農業被害が増大し、さらに農業経営を圧迫していると聞いています。

そこで、本市において中山間部を中心に増大しているイノシシによる農業被害の現状、及び被害に対する本市農業の基本的な姿勢をお尋ねいたします。

次に、子育て環境の充実という面から見た身近な公園整備について質問いたします。

都市の公共施設である公園、いわゆる都市公園にはさまざまな役割があることは承知しております。例えば、ヒートアイランドの緩和といった都市環境の改善や美しい景観や潤いづくり、また市民のレクリエーションの場、憩いや健康づくりの場の形成といったものです。市民の価値観やニーズは変化していますので、都市公園に求められる役割も時代とともに変化しているものと思いますが、現在では少子・高齢化への対応、とりわけ子どもを安心して産み育てることができる環境づくりといった面で、その役割はますます大きくなってきていると思います。特に子育て環境の充実という面から、公園デビューという言葉があるように、お母さんと小さなお子さんが安心して利用できる公園が身近にあるということが大変重要だと思います。小さなお子さんをお持ちのお母さん方にとって、お子さんを連れて公園デビューすることは健全な子育てのために、またお母さんが子育て仲間との関係を形づくっていく上でとても重要なステップとなっているのではないのでしょうか。いろいろな地域で生き生きと遊ぶ子どもたちや楽しそうに会話をするお母さん方にぎわっている公園を見かけますし、実際にお母さん方からそのようなお話を伺うことも少なくありません。

そこで、まず都市公園にはどのような種類があり、今申したような身近な公園はどれに当たるのか、またその配置の基準はどのようになっているのか、お尋ねします。あわせて、それらの公園の整備目標と現状はどうなっているのか、お尋ねいたします。

以上で1問目を終わり、2問目からは自席にて行います。

4番(川上晋平) まず、イノシシによる農業被害等の対策についてですが、先ほどの答弁では、平成19年3月に策定された福岡市農林業総合計画をもとに農業を守るという観点からさまざまな施策を実施しているということでした。しかしながら、平成20年度、21年度も約1億1,500万円もの被害が出ています。これは決して小さな額ではなく、高齢の農業者からは、一生懸命頑張ってきた農作物が1日でイノシシによって荒らされるのでは農業を続けられないという声も聞かれます。

そこで質問ですが、イノシシによる農業被害について、これまでどのような対策をとってきたのか、また今後どのような対策をとり被害をなくしていくのか、お尋ねいたします。

また、イノシシは農作物への被害を与えるだけでなく、人間にけがを負わせることも考えられます。先日、志賀島の自治協議会の会長さんから聞いた話では、志賀島地区では平成17年ごろからイノシシがふえ始めて、最近ではウリボウや100キロを超える大きなイノシシも身近な生活道路などにあらわれるということで、住民が襲われないか心配しているとのことでした。他都市でイノシシが人を襲ったニュースが流れることもあり、私も心配しております。

そこで質問ですが、イノシシが住宅地へ出没した場合など市民生活の安全を確保していくために市はどのように対策していくのか、あわせてお尋ねします。

次に、身近な公園整備についてですが、先ほど私が申し上げたとおりニーズや必要性があり、市も前向きに取り組んでいかなければならないという思いはあるようですが、きちんと配置できている地域もある一方で対応できていない地域もまだまだ多いように思われます。身近な公園がきちんと配置できていない地域は、公園用地の確保の問題から比較的都心に近い市街地の地域が多いようですが、郊外の農林漁業を生活基盤とする集落が点在する地域でも、地域住民が望んでいるのに公園が配置されていない地域も少なくならず残されています。例えば、東区志賀島の弘地区です。弘地区は、金印公園の先、海辺に面した漁業を中心に生活が営まれている地区です。平成21年9月の統計によれば150世帯、約400人の方々が生活しておられ、子育て世帯も幾つもありますが、小学校までの道のりも遠い上、周囲に海や山などの自然はあっても、小さなお子様が遊べる公園が一つもないという状況です。お母さん方からは、遊具や砂場がある公園を待ち望む声が上がっております。このように市街地だけでなく郊外の集落地区にも子育て環境の充実という面から、身近な公園の配置が必要ではないかと思えます。本市は、日本一子育てしやすいまちづくりを政策目標に掲げていますが、子どもを安心して遊ばせることができる場所が欲しいという地域の要望にできるだけ早期にこたえられるよう、もう一つ工夫が必要ではないのでしょうか。例えば、このように身近な公園の配置が十分でない地域では、街区公園といった公園種別に規定されている面積や配置の基準にこだわらず、幼児公園のような子どもの遊び場程度の小規模な公園を計画することで用地の確保も容易になることから、地域の要望に迅速にこたえることができるのではないのでしょうか。このように、身近な公園の配置が十分でない地域については、市街地であっても郊外であっても地域の実情に応じたきめ細やかな対応があってもよいのではないかと考えます。

そこで質問ですが、まず、面積や配置の基準にとらわれず身近な公園づくりに取り組むという私の提案に対して、行政府の考えをお尋ねします。また、身近な公園が必要なのにもかかわらず、まだ配置されていない42地域の早期対応に向け、予算を含めて年次的な計画はどうなっているのか、お尋ねいたします。

4番(川上晋平) まず、イノシシから、市民の安全に対してですけれども、志賀島は今結構やっぱり心配されておられる方がたくさんおられますので、早急にチラスシの配布など対応をとっていただきたいなというふうに思っております。イノシシによる農業被害等の対策についてですが、今年度を実施される鳥獣被害防止総合支援事業では、侵入防止さくや箱わなの設置、イノシシの捕獲等により、平成23年度の被害額目標値として平成20年度被害額の70%以下としているとのことですが、まずは少しでも目標以上に被害額を減らしていただけるように努力していただきたいと思えます。ただ、残念なことに、仮に70%という目標が達成できたとしても約8,000万円の被害が出るということです。これは

鳥獣保護という考え方もあり、ある程度は仕方ないことであるとは理解しています。しかし、私は農業を取り巻く不安定で厳しい現状を考えると、鳥獣被害だけではなく自然災害による被害や、今宮崎県のほうでも口蹄疫で大変な被害が出ていますけれども、農作物や畜産の病気による被害にも行政としてしっかりと何らかの補償をすべきと考えております。国も農村なくして都市は存続しないと言っていますが、農業にそれくらいの安定性がないと、若い農村の担い手なんてできてこないというふうに考えております。

そこで質問ですが、経営基盤が安定していない本市の農業者に対し、農業被害に対する新たな支援策は考えられないのか、また、国に対しても農業者の農業被害に対する新たな支援策を要望すべきと考えますが、御所見をお尋ねいたします。

次に、身近な公園整備についてですが、全国的には通学路や公園で子どもが連れ去られるという見過ごすことができないニュースも流れており、地域ぐるみで防犯パトロールや登下校の見守りも行われているところではあります。子どもの遊び場づくりも、基準どおりの公園という箱だけを用意すればいいという時代ではありません。地域の方の目が行き届いて、安心して子どもを遊ばせることができこそ、本当の子育て環境の充実と言えるのではないのでしょうか。私は、幼児公園のように規模が小さくとも、そのような地域の見守りの中で子どもを安心して遊ばせることができる環境をできるだけ早期に充実させることが今最も求められているのではないかと思います。いまだに身近な公園の配置が十分でない地域が残っている原因は、適当な用地が容易に取得できないことや財政状況が厳しいなどの事情もあるのでしょうか、だからこそ私は基準にとられない公園づくりも含めて、現実的なしっかりとした計画を立てて取り組むべきだと考えます。また、行政当局は地域住民から要望が出てくるのを待つ受け身の立場ではなく、積極的に地域に働きかけ、きめ細やかに要望を把握し、用地の取得や公園設置後の管理、防犯対策などについて地域の協力を得ることで、安心して利用できる身近な公園づくりに取り組んでいかなければならないのではないかと考えます。

そこで、最後に、いまだに身近な公園の配置が十分でない地域がある一方、しっかりとした年次計画ができていない現状や子育て環境の充実という視点も踏まえ、今後どのように公園づくりに取り組んでいくのか、市長のお考えをお尋ねして、私の質問を終わります。